

平成 29 年度埼玉県オハイオ州スカラシップ
語学・大学留学コース 4 月レポート
「残された日々の中で」

小口 智美

これが最後の月間レポートとなりました。帰国の日が近づいていることを感じています。帰国にあたり、キャンパスで借りた自転車の返却やデビットカードのお金の引き出しなどやらなければならないことがたくさんありますが、一つ一つ着実に進めていこうと思います。また、友達たちと思い出を作り、残された日々を楽しく、充実したものにしたいと思っています。

今回のレポートでは、イースターと大学の合唱のコンサート、オハイオ州議会の訪問について紹介します。

—イースターの様子—

イースターとは、復活祭のことであり、十字架にかけられて死んだイエス・キリストが三日目に復活したことを祝う祭りです。私はイースターという行事についてよく知りませんでした。春になると東京ディズニーランドやディズニーシーの商業でイースターという言葉聞いたことのある程度で、卵やうさぎというイメージしかありませんでしたし、何を祝う行事なのかは知りませんでした。イースターはキリスト教徒にとって大切な行事です。教会に行き、家族でごちそうを食べてお祝いします。イースターの具体的な日にちは決まっておらず、春分の日後の最初の満月から



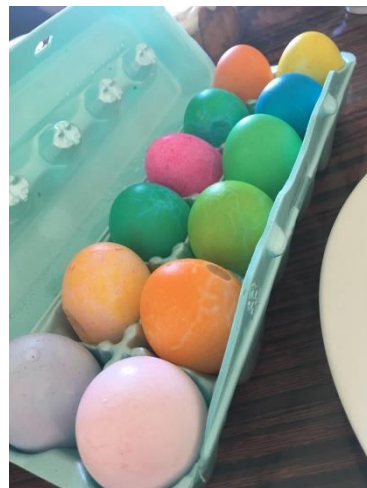
友人たちとのイースターの様子

から数えて最初の日曜日と定められています。今年(2018年)のイースターは4月1日の日曜日にありました。ちなみに、来年2019年のイースターは4月21日になるそうです。

大学ではEaster Breakがあり、イースター前後の4日間、大学が休みでした。大

学では多くの学生が大学の寮、もしくは大学近辺のアパートを借りて住んでいます。そのため、Easter Break には多くの学生たちが実家に帰ります。実際に私のハウスメイト 3 人も実家に帰りました。

今回、私を含めた友人たち 8 人でイースターを過ごしました。2 月ごろから友人たちと計画し、イースターに実家に帰らないことを決めました。イースター当日は教会に行き、そのあと友人宅でごはんを食べました。「イースターエッグ」と呼ばれるものを作りました。キリスト教では卵が生命のシンボルとなっています。イエス・キリストの復活祭であるイースターでは、生命のシンボルである卵に色をつけます。スーパーマーケットなどで卵を着色するためのものが売られており、簡単に手に入ります。友人たちと楽しい思い出が作ることができ、アメリカの文化も経験することができました。



友人たちと作ったイースターエッグ

—合唱コンサートの様子—

秋学期に引き続き、春学期も合唱の授業を履修しました。毎学期合唱の発表会があり、今回もそのコンサートに参加しました。私はメゾソプラノで歌っています。



開演前の様子。合唱の先生が自撮りをしました。

歌が早い部分、発音が難しい部分、音を取りにくい部分もありましたが、何度も繰り返して慣れることで克服していきました。英語の曲だけではなく、ドイツ語やスペイン語の歌も歌いました。ドイツ語とスペイン語は勉強したことがありませんでした。そのため、授業内外で歌詞の意味を調べたり、その歌にどんな意味が込められているのかを考えたりしました。コンサートでは 10 曲程

度歌いましたが、当日までにはすべての曲を暗譜で歌えるようになりました。私は日本の大学で合唱をしていました。アメリカの大学でも大好きな歌を続けることができ嬉しいです。合唱の授業を通して友達を作ることもできました。

—州議会訪問の様子—

4月19日に、大学の川村教授、機械工学インターンシップコースの学生と共に州都のコロンバスに行きオハイオ州議会を訪問しました。入り口は厳重に警備され



ており、州議会に入るにあたり金属探知機などを用いたボディチェックを受けました。衆議員の方のお話を聞いたり、実際にその衆議員の方が議会で座っている席を案内していただいたりしました。

州議会内部の様子

州議会訪問の後、Jobs Ohio という会社にお邪魔して、プレゼンテーションをしました。私は、埼玉県の紹介とフィンドレーでの経験・学んだことについて発表をしました。わざわざ私たちのために時間を作っていただいたこと、熱心にプレゼンテーションを聞き、たくさんの質問をしてくださったことに感謝しています。